誠司くんの

見たこと、聞いたこと、歩いてきた道

第5回　夕食後の職員室

放課後の寄宿舎では、入浴、掃除などの日課がありました。入浴の日は、校長室には行けませんでした。

夕食後、自習時間までの一時間足らずの自由時間がありました。その時間は散歩をすることが多かったです。散歩といっても校外に出ることはありませんでした。しかし、広い校内を散歩するのはそれなりに時間がかかりました。農耕の実習棟エリアには果樹園があり、初夏はビワ、秋にはミカンや柿が食べ頃になります。実習棟には、担当の先生方が残っていて果物や漬物などを試食させてくれました。

散歩先でよく行っていたのは、寄宿舎に近い小学部の職員室でした。

職員室には、たいてい岡村敏彦先生がいました。岡村先生は、校長の戸梶先生と一緒に東高知病院分校から転勤してきていました。後に岡村先生ご本人から聞いた話では、「戸梶さんが、校長をやるのに自信がないきに、『岡村、一緒に行ってくれ』と言われた」と語ってくれました。

職員室の岡村先生は、お世辞にもきれいな身なりをしているとはいえませんでした。が、一緒にいる時間は、安心感というか安堵感に満ちあふれていました。

具体的にどんな話をしたかは覚えていませんが、学校生活や進路への思いなどを話していたように思います。戸梶先生との「交渉」については、岡村先生と相談し続けてのことだったと思います。

その頃の私は、普通の高校生がどんなことをしているのかということに、大変興味をもっていました。高校生になってすぐある先生から「高校生の多くはこんな新聞を読みゆうで」と『われら高校生』という新聞をすすめられて読んでいました。そのなかで高知県のある学校で「マフラー禁止反対」というとりくみをしているとの記事がありました。岡村先生らと相談してその高校生に会いに行きました。これが私が青年運動にかかわり始めたきっかけでした。

私が卒業する直前に岡村先生から「これからは悪いこと（社会的活動）がし放題やね」と言われました。卒業後も岡村先生とは、たくさんのとりくみを一緒にしてきました。最大のとりくみは、1996年に高知で開催した全障研第30回大会。退職していた岡村先生と故田村輝先生が私とともに「昼間の事務局」として、大会の成功に多大な力を貸していただきました。

その後、旭共同作業所、そしてNPO法人あさひ会設立にかかわってくれました。

私は岡村先生と歩んできたと言ってもいいでしょう。

松本誠司

まつもと　せいし／1968年、高知県生まれ。全障研高知支部。「障害者の生活と権利を守る高知県連絡協議会」事務局長を務め障害者運動の先頭に立ち続ける。趣味は観劇にスポーツ観戦。それからグルメも。